

こうていえき

## 口蹄疫防疫対策に次亜塩素酸水、JAが管内畜産農家希望者に供給

藤沢町の企業がJAに無償貸与

JAの総合営農センターでは、口蹄疫防疫対策としてウイルス除菌効果があるという次亜塩素酸水を生成し、希望する管内畜産農家に無償供給を始めました。

次亜塩素酸水の生成装置は藤沢町に岩手工場があるインテگران（本社東京都品川区、関山浩一代表取締役社長）がJAに無償貸与し、藤沢町とJAが連携して管内の繁殖や肥育、酪農農家の約1,100戸を対象に無償で供給します。

これまでは、業務車両の消毒にカセイソーダを使っていましたが、現在は、人畜に安全で殺菌能力が早く使いやすい次亜塩素酸水を使用しています。畜産農家にはこれまで配布した炭酸ソーダや消石灰と併せて口蹄疫の防疫対策の徹底に取り組んでいます。

生成水の希望、お問い合わせはJA畜産販売課へ 電話75-3313



次亜塩素酸水を生成したタンクに貯める畜産担当職員

## 口蹄疫対策に係る募金並びに署名活動の報告

募金合計金額

918,155円

署名数

3,294人

募金と署名は6月30日にJA岩手県中央会へ送りました。

**皆様のご協力に  
感謝と御礼を申し上げます。**

JAいわい東農政総合対策本部

## 小菊販売額5億円を目指す

JA花き部会小菊全圃場巡回指導／花き販売対策会議



小菊の栽培管理を学ぶ部員ら



花き販売対策会議後、圃場を視察する市場卸会社の担当者

JAの小菊は、10年連続で販売額が県内1位を誇る主力品目です。22年度の栽培面積は53<sup>ほじょう</sup>で、12万7千ケースの出荷を計画。販売額5億円を目指し、安定した品質や信頼されるブランドづくり、岩手県の小菊責任産地として努力しています。

花き部会小菊専門部は、6月14日から18日まで5日間、全部員(214人)の圃場の巡回を行い、現地指導会を行いました。巡回は30地区4班体制で、小菊生産振興推進員、JA花き担当者、一関農業改良普及センター農業普及員らで各圃場の生育状況を確認し、それぞれの圃場状況に合った栽培管理や病虫害防除を指導しました。部員も一緒に地元の圃場を巡回し、生産者がお互いの圃場を見ることで栽培技術向上を図りました。

また、花き部会は6月24日、花き販売対策会議を開き、花き部会委員の代表者や取引市場10社が出席し、部会の出荷計画や花市場の情勢、要望を協議しました。市場担当者は「今年の市場の動向は、需要期でなくても出荷数が少ないので単価高で動いている。花屋も7月から9月の小菊の出荷数を期待している」と話しました。

JA花き担当者は「春先の低温の影響で全体的に8月咲きの定植が遅れ、例年より5~10cm伸びが少ないが、病虫害被害は少なくおおむね良好だ。適時の病虫害防除を徹底し良質な小菊を産地に届けたい」と期待を寄せています。

同部では7月27日、小菊出発式を予定しており、22年度の販売がスタートします。